日本手術看護学会の活動

日本手術看護学会の「医療安全」に対する取り組み

日本手術看護学会副理事長　栗田 衛

日本手術看護学会（JONA）は、手術医療・看護を取り巻く社会情勢の理解を深め、手術看護専門領域の教育・研修を行い、実践に基づいた研究をすることにより、手術室看護師の質の向上と役割拡大を図り、人々の健康とQOLの向上に寄与することを目的とした団体です。

医療を取り巻く環境は、大きな変化の中にあります。少子・高齢化、医師・看護師不足および偏在、また、看護教育の高学歴化などにより、看護業務の拡大が言われております。厚生労働省はじめ看護教育の現場、麻酔科・外科系の医師らが新しい役割を模索しています。本学会は、このような情勢において、変化に流されるのではなく、しっかりと向き合って対処し、前進していきたいと考えております。

本学会は、医療安全全国共同行動「いのちをまもるパートナーズ」に賛同し、患者さんと医療者がともに安心して治療に専念できる医療安全対策の事業を推し進め、学会活動はもとより、手術医療現場で手術安全の手順（※）についてのマニュアル「タイムアウト」を作成し、ホームページに掲載しております。全国的調査でもタイムアウトの実施が十分にできていない施設が多く、今後、安全な手術医療を行う上でタイムアウトの実践は世界標準となるので、すべての施設で取り組みがなされるよう本学会として強力に推進していきます。

また、中堅者・管理者研修、手術看護認定看護師のフォローアップ研修などを企画し、医療安全についての研修を行うとともに、全国11ブロックある地区学会での研修においても、年に一回医療安全に関する研修を企画実施しております。国内の学会はもとより、国際周術期看護師連盟（IFPN）、米国周術期看護師協会（AORN）などの国際学会との連携を深めるとともに、アジア地区のネットワークの構築と手術看護の情報の共有化を図るためにアジア周術期看護師協会（ASIORNA）を組織し、医療の質、安全の確保と向上を目指し、周手術期看護の一層の発展のために、さらにネットワークを強固にし、世界に向けて新たな情報を発信していきたいと思います。

麻酔導入前、タイムアウトの実施場面

※日本手術看護学会推奨「手術看護手順」

（本学会HP会員専用ページ　掲載項目）

１．手術患者・手術部位の誤認防止

２．体内異物遺残防止

３．摘出された臓器・組織・検体の取り扱い

４．深部静脈血栓症（DVT）の予防

５．手術中の低体温の予防

６．手術室における輸血の取り扱い

７．手術野で使用する薬剤の取り扱い

８．手術室における地震対策

９．インプラントの取り扱い

10．ラテックスアレルギー患者への安全対策

11．周手術期の手術看護記録の記載内容について

＊日本手術看護学会のホームページ　http://www.jona.gr.jp/index.shtml

第２５回日本手術看護学会年次大会が２０１１年１１月４日（金）・５日（土）、名古屋国際会議場にて開催されます。詳細は上記ＨＰでご案内していますので、どうぞご覧ください。